

25日に新装オープンした。また、この新装オープンに合わせて同館の愛称を「ていぱーく」とした。

通信総合博物館の入館者数は、改装前の1987年度の約26万3,000人に対し、1989年度は約31万4,000人、1990年度は約33万1,000人と増加した。

前島記念館⁹⁸は、1981年に開館50周年記念事業として別館を新築した。1989年には7月から12月まで本館の全面改装工事をし、展示点数を増やす等内容の充実を図った大幅な展示替えをして同月13日に新装オープンした。

【高額詐欺・横領事案】

1980年代には、郵政事業史上空前であった「相模大野事件」の約2億4,000万円を上回る、赤池郵便局（福岡県田川郡福智町）の局長による損害額約3億6,000万円の郵便貯金等詐欺・横領事案があった。この事案は、1982年6月に発覚した。

この事案を踏まえては、特定郵便局長業務推進連絡会（特推連）との連絡を密にし、特定郵便局での犯罪の防止と早期発見を図るため、地方郵政監察局支局に「特推連連絡担当監察官」を置く等の措置を講じた。

第7章 経営成績

1980年代の郵便局数及び事業別の損益その他の経営成績は、以下のようなものであった。

年 度		1980	1981	1982	1983	1984	1985	
郵便局数（年度末）		23,005	23,134	23,250	23,391	23,513	23,633	
郵便	郵便物数 （万通・個）	1,578,669	1,495,141	1,548,757	1,624,919	1,660,150	1,718,827	
	損益 （億円）	収 益	9,403	11,866	12,190	12,508	12,710	13,381
		費 用	9,773	10,692	11,409	12,170	12,596	13,369
		損 益	▲370	1,173	781	338	113	12
		累積損益	▲2,494	▲1,320	▲539	▲201	▲87	▲75

⁹⁸ 1931年11月7日に現在の新潟県上越市の前島密が生まれた上野家の屋敷があった場所に建設され、当初は上越三等局長会が維持運営に当たっていたが、1937年12月に国に寄附され、通信博物館の分館とした。

郵便貯金	郵便貯金の残高（年度末）（億円）		619,543	695,675	781,026	862,982	940,420	1,029,979
	損益 （億円）	収 益	40,281	47,617	53,193	59,090	64,688	71,228
		費 用	37,703	48,733	53,922	61,412	64,735	65,371
		損 益	2,578	▲1,116	▲728	▲2,322	▲46	5,857
		累積損益	643	▲472	▲1,929	▲5,846	▲3,616	2,287
簡易 保険	保有契約件数（年度末）（万件）		5,320	5,382	5,279	5,347	5,448	5,560
	保険金額（年度末）（億円）		526,481	586,565	645,646	705,759	778,739	854,587
	損益 （億円）	収 益	39,559	44,427	49,154	54,707	60,338	67,670
		費 用	35,580	39,262	42,762	46,878	53,718	59,852
		剰余金	3,979	5,165	6,391	7,829	6,620	7,817
簡易保険・郵便年金の資金（年度末）（億円）			154,308	178,319	203,977	231,820	259,872	290,087

年 度		1986	1987	1988	1989	1990	
郵便局数（年度末）		23,713	23,793	23,886	23,994	24,107	
郵便	郵便物数（万通・個）		1,814,188	1,943,414	2,033,711	2,149,568	2,281,489
	損益 （億円）	収 益	13,997	14,650	15,271	16,990	18,025
		費 用	13,937	14,381	15,132	16,824	17,900
		損 益	60	268	138	165	125
		累積損益	▲15	253	392	558	683
郵便 貯金	郵便貯金の残高（年度末）（億円）		1,103,951	1,173,907	1,258,691	1,345,722	1,362,803
	損益 （億円）	収 益	76,345	78,626	85,040	84,740	87,459
		費 用	70,731	80,431	92,601	82,390	79,168
		損 益	5,613	▲1,805	▲7,560	2,349	8,290
		累積損益	7,900	6,095	▲1,465	884	9,174
簡易 保険	保有契約件数（年度末）（万件）		5,765	6,029	6,318	6,584	6,906
	保険金額（年度末）（億円）		938,493	1,032,838	1,131,468	1,230,120	1,343,824
	損益 （億円）	収 益	75,193	85,940	99,860	98,226	107,775
		費 用	67,385	78,192	86,321	88,991	97,817
		剰余金	7,808	7,747	13,538	9,235	9,958
簡易保険・郵便年金の資金（年度末）（億円）			325,876	368,471	415,102	464,156	517,835

注1： 郵便局数には一時閉鎖局、昭和基地内郵便局及び船内郵便局を含む。分室はいわゆる本局に含み、計数には含まない。

2： 郵便貯金事業の損益は1987年度以降は一般勘定及び金融自由化対策特別勘定の合計

郵便事業は、郵便物数は、1980(昭和55)年から1981年にかけての料金の改定の影響で1982年度までは1980年度の158億通・個を下回ったが、1990(平成2)年度には1980年度の1.4倍の228億通・個となった。料金の改定は、1981年より後は消費税の転嫁のためのものを除いてせず、定形外郵便物等については利用の拡大を図って値下げをした。収益は、1980年度の9,403億円から1990年度には1.9倍の1兆8,025億円となり、1981年度以降連続して利益を計上して1987年度に累積欠損を解消し、その後も利益の計上を続けた。

郵便貯金事業は、郵便貯金の残高は、1980年度末の61兆円から1990年度末には2.2倍の136兆円となった。金利は、定額郵便貯金(3年以上)について述べれば、1980年12月の7.25%から1987年3月の3.64%まで引下げを続け、その後1990年9月の6.33%の次のピークまで引き上げた。損益は、1980年代前半は資金運用部の預託金利が低く抑えられたこと等で4年度連続して赤字となったが、その後利差は改善して損益も改善し、1987年3月からは、預託金利は、市場金利を考慮するとともに、郵便貯金事業の健全な経営の確保等に配慮して定めることとされた。発生主義の導入に伴う経過措置で赤字となった年度もあったが、1980年に預入された高金利の定額郵便貯金が満期を迎えたことで支払利子が大幅に減少して1990年度には8,290億円の利益を計上し、累積利益は9,174億円となった。

簡易保険事業は、保有契約件数は、1980年度末の5,320万件から1990年度末には1.3倍の6,906万件、保険金額は、同じく53兆円から2.6倍の134兆円となった。

1981年9月から販売した新郵便年金は順調な伸びを示し、表には示していないが、1990年度末の保有契約件数は194万件、年金額は4,167億円となった。

簡易保険及び郵便年金の資金は、1980年度末の15兆円から1990年度末には3.4倍の51兆円となった。

